

令和5年度 特別養護老人ホーム第2愛港園 事業報告(案)

社会福祉法人みなと寮

I 総括

1. 特別養護老人ホーム

令和5年度の新規入所は14名、退所者は16名。利用状況は、利用延べ人員が、男性4,485名、女性13,050名、合計17,535名。1日平均利用実人員が47.9名となり95.8%の利用率(充足率)となっております。前年度と比較して利用率が3.0%増加しました。ショートステイ利用状況は、利用延べ人員が、男性124名、女性795名、合計919名。1日平均利用実人員が2.5名となり、50.4%の利用率となっております。前年度と比較して利用率が3.1%増加しました。

平均年齢は、男性が81.5歳、女性が86.4歳、全体の平均が85歳になります。

平均入所期間は、2年7ヶ月で、平均要介護度は3.50となっております。

ADL状況では、車椅子使用者が17名、入浴の全介助が27名、食事の全介助が14名、排泄に関しては17名の方がオムツを使用しています。

認知症の状態では、軽度が7名、中度が28名、重度が13名となっております。

食事サービス状況は、主食では粥食が16名、副食はキザミ食の方が21名、ペースト食の方が3名となっております。

2. 地域公益活動・社会貢献事業の取り組み

(1) 地域公益活動地域公益活動については、「生活困窮者レスキュー事業」について1件の要請がありました。「地域行事への参加」については、港区民祭り等への参加となっております。今年度の市民後見人養成講座施設体験の受け入れについては受け入れ準備は出来ていましたが要請がありませんでした。「緊急ショートステイの受け入れ」については、本年度も受け入れ体制を整えておりましたが、要請ありませんでした。

II 事業報告

1. 重点項目 *当該年度運営指針に対する成果

(1) 情報公開、情報開示を積極的に行うため、ホームページの更新、施設広報紙(第2愛港園便り)を発行しました。また、苦情解決状

況や年間事業計画をホームページへ公開するとともに施設内掲示板にて周知しました。

(2) 虐待防止、身体拘束廃止、人権擁護を推進し人に優しいサービスを提供するために、人権研修3回、身体拘束適正化委員会12回を実施し人権意識を高めました。

(3) 職員の育成と離職防止に向けた魅力的な施設作りの実現に、非常勤職員を含めたスタッフ会議を実施するなどし、業務に対する意見交換や効率化を図りました。

(4) 事業運営の安定化のため事業収入の増加(利用率のアップ)を掲げていましたが、新型コロナウイルス感染による入院者や退所者の増加にともない昨年度より利用率は3.0%回復しましたが、当初予算額には届かず介護保険料収入は減少しました。支出については人件費について、職員の減少により当初予算額より、250万円ほど減少しております。

(5) コンプライアンスの徹底

会計監査人が設置され、財務状況について外部からの客観的な監査を受けることにより透明性を確保しています。

自主評価の一環として法人内部監査を継続実施し、お互いの事業所で適切なサービス提供となっているのかを相互チェックし、運営面・サービス面の向上を図る目的で、法人内での自助努力を継続する予定でしたが感染症拡大により実施できませんでした。

2. 運営

利用率97.0%以上を目標にしましたが、昨年度末から退所者が増加し、回復まで8月末までにかけて緩やかに利用率が回復するも、退所者が入所者を上回り、年間の利用率は95.8%にとどまりました。

3. 利用者サービス

(1) 福祉サービス第三者評価受審後の改善

福祉サービス第三者評価結果を基に、サービス改善委員会を毎月開催し客観的な視

点でサービスの現状を分析し、より質の高いサービス提供に努めました。

- (2) 食事に関しては、委託給食業者と連携を取りながら、食事形態の改善に取り組んでおります。給食懇談会や食事聞き取りアンケートでは、利用者の嗜好等を聞き献立内容に反映させています。
- (3) 介護事故防止に向けたリスクマネジメントを充実させるため下記の方策を行いました。
 - ・丁寧な介護を行うことで表皮剥離、誤嚥、誤飲、介護ミスなどの事故の減少を図りました。
 - ・転倒転落事故の防止に向けて、事故・ヒヤリハット報告書を解析し、また事故ゼロ記録を行い事故に繋がる事例を集め、意識を高める事で事故件数を減少させることができました。
- (4) 褥瘡ゼロを目指して、褥瘡防止委員会を毎月行い、褥瘡予防に努めました。
- (5) 健康維持管理サービス
 - ・毎食時、口腔ケア体操を行い口腔機能低下防止に努めています。
 - ・月2回歯科医師によるラウンドミールを行い、個々の利用者の口腔機能状態を確認し、食事形態の相談や食事時の注意点等、アドバイスを頂き、利用者の口腔機能維持に努めています。
- (6) 食事サービス
 - ・特別献立を年間15回実施しました。クリスマスにはケーキのデコレーション実演をし、季節の雰囲気を楽しめるよう努めました。
- (7) レクリエーション・余暇活動
 - ・お花見、近散策を実施し、施設内でのレクリエーションを積極的に行い、より楽しく生活してもらえる時間を提供しました。
 - ・余暇活動では、様々な活動を用意し、楽しみ、生きがい、自己実現の一助になるように努めました。
- (8) 利用者の満足度の把握
 - ・3月に行った家族への満足度アンケートでは家族97.4%、同じく1月に行った利用者への満足度アンケートでは利用者94.4%の方より総合的に満足との評価を頂

きました。（「普通」評価 家族0%、利用者8.3%）

- ・食事に関してミールラウンド時に聴き取りを行い、食事の味付けや量、献立への要望とリクエストを調査しました。

4. ボランティア・実習生の受入

施設機能の開放、ボランティアなどを受け入れる事により、施設への理解を得るとともに施設の活性化、地域社会との接点、交流機会の増加を図る準備は整えておりましたが感染症拡大防止の為、受け入れ要請もございませんでした。

- ・看護師実習生の受け入れ 1校 2名
- ・成年後見人実習受入 0校 0名
- ・ボランティア受入 延べ0名

5. 職員の確保と育成

(1) 会議・委員会

職員会議・給食会議といった主要会議は、定例的に毎月実施することができ適宜検討課題に全職種を交えて協議することで情報共有と施設の抱える課題解決の解消に取り組みました。

小規模施設であるが故に働く職員数も少ないため、支援課題や業務の効率化などを正規職員だけではなく、非常勤職員も含めた検討場面を設け、それぞれが主体的に発言しやすいよう工夫を行っています。

新型コロナウイルス感染対応に関する会議も1回開催し、日々状況が変わる感染予防にする情報を職員間で共有しています。

(2) 人材確保の手法として紙媒体の求人誌以

外にも、インターネット上の多様な求人サイト（エルユーエス）を充実させ、新卒及び中途採用者の確保に努めました。

(3) 内部研修を愛港園と合同にすることで、

研修に参加出来る機会を増やすことが出来ました。

6. 危機管理

(1) 事故防止安全対策

事故防止委員会を毎月多職種で開催し介護事故の分析を行いながら、介護事故防止策を検討しました。

(2) インフルエンザ・ノロウイルスなどの感染予防の徹底及び新型コロナウイルスに対しては対応マニュアルを作成し、施設・職員としての行動規範を示し利用者への感染予防に最大限努めています。

(3) 防災訓練については、夜間想定を含めて6回実施しました。消防署立ち合いの愛港園との合同訓練は、感染症拡大防止の為、消防署の立ち合いは出来ませんでした。年2実施しております。また防災会議を毎月おこない、常日頃から職員の防災意識を高める防災教育を実施しました。

大阪北部地震、台風など様々な自然災害の経験から、緊急時用ポータブル発電機を購入し、災害時における準備物の更なる整備・点検を行いました。

(4) 個人情報保護・情報管理の徹底

- ・改正個人情報規程（2017.12.1）を周知徹底し、個人情報保護に関する意識を高めました。
- ・「SKYSEA」（IT機器やソフトウェア資産を一元管理し、情報セキュリティ対策やIT資産の有効活用を支援するクライアント運用管理ソフトウェア）を導入することで、デバイス管理やログ管理を行い情報セキュリティの徹底を図りました。
- ・電子機器を使った外部との通信には、「beat」を使った多層防御による強固なセキュリティ対策を図りました。

(5) 福祉施設としての事業継続計画（BCP計画）を策定し、災害・感染症流行時における利用者の安全と生活の確保に努め、地域の防災活動にも積極的に参加して施設の社会資源を活用できるように努力しました。

(6) 防犯対策では不審者の侵入を防止するために、1階職員通用口の暗証番号を定期的に変更し防犯体制の強化を図りました。